



というのです。仕方がないのでその駅つくまで待つっていると、車掌さんは駅に着くなり、駅長室に急いで行かれ電話をかけてこられたのです。発車時間が来るのにお構いなしに親切に電話をかけて来られたのです。ところがその駅から諫早駅には直接電話がかからず、他の駅を通じて諫早駅に連絡してもらい、それから諫早駅から島原駅に様子を知らせるようになっているといわれるのです。そして仕方がないので運を天に任せるほかに島原駅まで行ったのです。

この上っ張りは私が買い求めたものではなく、医学博士の河野 稔先生からいただいた記念の上っ張りでした。河野先生の病院の大勢の人達の朝の会で講演したとき、その後もう一度来るようにいわれ、二度目に行った時、上っ張りに私の名前まで染めぬいて入れてあり、それに控えとして二枚いただいた記念の上っ張りでした。私はそれまでは沖縄で買った上っ張りを着ていたのですが、河野先生からいただいたものは立派な上等のものでした。それから河野先生に守っていただいていると思いつつも大切にしておいてきたものでした。この時はあるか、ないか、運を天に任せるとはいいいながら、河野先生に守っていただいているから必ずあると思っていたのでした。果たせるかな、島原駅に着いて駅長さんに会うと、諫早駅から島原駅に届けてくれるようになっていたことでした。誠にありがたいことでした。それからあふろしき包みは手から離さないように注意しています。手から離せばつい忘れるのでよく注意しています。これは昭和六十一年のことでした。